

「ロータリー平和センターの現況」

ロータリー平和センターホスト
エリアコーディネーター
辰野 克彦

ロータリー平和フェロシッププログラムは国際ロータリーの中で、地道ではありますが大変意義のあるプログラムでございます。よくご承知いただいております方も大勢おられますが、皆様にご理解を深めていただくためにも、この機会に現況などを説明させていただきます。そしてパネルディスカッションで今後の展開をお聞きいただきたいと思っております。

ポールハリスは、2度の世界大戦の中を生き、世界平和の難しさを痛感し、強く平和を希求したロータリアンでありました。ポールハリスが亡くなられて50年を記念し、彼のメモリアルプログラムとして2002年度に創立されましたのが「ロータリー平和フェロシップ」でございます。

世界平和にリーダーシップをもって尽くしていただける30歳代くらいの優秀な働き盛りの人達を毎年世界中から募り、そのなかから100名を厳選し、国際ロータリーが世界の名門7大学のご協力のもと、6つのロータリー平和センターにおきまして平和構築のため2年間勉学の励んでいただくことを目的とし、そのため物心全般を支援するプログラムでございます。今日までに世界で960名の卒業者を輩出しました。在学中のフェローを入れますと1150名になります。世界の6つのセンターのうちのひとつが国際キリスト教大学・ICUにあります。ICUでは現在卒業生が丁度100名で、今2学年18名の学生が勉学に励んでおります。

もう少し申し上げますと、2年制の修士コースのセンターは5つありまして、

- ◆ イギリスのブラッドフォード大学、
- ◆ アメリカのデューク大学とノースカロライ

ナ大学チャペルヒルズ校

- ◆ 日本の国際基督教大学
 - ◆ オーストラリアのクィーンズランド大学、
 - ◆ スウェーデンのウプサラ大学、
- であります。

もうひとつ3か月の能力開発コースのセンターがありましてタイのチュラロンコーン大学がございます。

ICUが2750地区にあることもあり、2750地区でICUと緊密な連絡をとりながらロータリー平和フェロシップ推進のお手伝いをさせていただいております。ホストエリアと申しまして、ICUで勉学する平和フェローのカウンセラーになりお世話を近隣の6地区 2580 2590 2770 2780 2790そして2750地区で務めさせていただいております。

平和フェローになりたいと申込することは世界中どこからでも、勿論日本どこからでもどこかRI地区の推薦があれば出来ます。世界平和に尽くしたい、そのために勉強をしたいという人達は日本全国におられると思います。是非地区におきましてそういう人達を発掘し、ご推薦をいただきたくと思います。

私は2010年モントリオールのRI国際大会で、キプロス島出身で、2008年から2010年のロータリー平和フェローのマリアス・アントニウさんのお話をお聞きし大変感動しましたことが思い起こしますので、ここで紹介させていただきます。

彼の出身地、キプロスは地中海西寄りにあり、十字軍やフランスの支配下にあったかと思うとオスマントルコに300年間、1800年後半からは大英帝国の支配下にあり、1960年に独立したという歴史を持つ国でございます。独立後も英国風憲法は機能せず、1974年、北側はトルコ系、南側はギリシャ系と分けられ、その間には、1974年から2003年まで越えることのできなかった分断ラインがあり、

国連平和部隊が守備していたという島国です。マリアス・アントニウさんは1982年にギリシャ系住民として生まれ、以来トルコ系住民は「敵」と教育されて育ったのです。

1998年フルブライト奨学生としてアメリカに留学した彼は、そこでトルコ系、ギリシャ系キプロス人学生20名ずつで初めて話し合う機会を得たときの驚きを話してくれました。まず、「敵」と教えられていたトルコ系学生の温かな歓迎を受けたことにカルチャーショックを受けましたが、彼はその後のディスカッションの中ではお互いの認識の違いに驚かされます。1974年を「トルコ侵略」と教育された彼は、トルコ系学生たちは「Happy Peace Day Operation」「幸福と平和の日作戦」と教えられていること、またトルコ系学生が「1963年にはEOKAというテロ集団に大勢のトルコ系住民が一夜で殺された」と言えば、ギリシャ系学生は「EOKAは祖国統一のために戦ったのだ」と反論する始末。結局その話合いの中で共通点として認識し合えたのは、「お互いに対する敵意」だけだったと彼は話しました。そして、1974年には生まれていなかった40人の学生たち皆が持っていた「敵意」は、「目撃しなかった記憶」が教育の中で刷り込まれてきたものであることに彼は気づくのであります。

と同時に自分の知識や知覚の多くが教育の産物であることを再認識した彼は、「何が真実か？」と自らに問い、教育のシステムを変えなければと思いついたので。

その後2003年には分断ラインが29年ぶりに開かれ、今では自由に行き来は出来る状況で、キプロス内でギリシャ系、トルコ系ロータリークラブがいろいろなプログラムを共有しているなど進展もあるとのことですが、愛国心とアイデンティティはトルコ人としてのものと、ギリシャ人としてのものに分かれており、お互い相手が自分の権利を侵害していると思っている限り人々の心にある相手へのわだかまりはなかなか解けない状況であ

りました。その中で彼は過去を学び、受け入れ、相手の苦悩を思いやる事が出来るような教育のシステムを作るべく奔走しておられるということでありました。

「互いへの敵意」だけを共通項とする厳しい現実のなかで未来を開こうとする彼の平和実現への情熱には大変感銘を受けました。

2004年、南部のキプロス共和国がEUに加盟し、トルコもEU加盟への交渉を開始した事から解決への道が開かれました。南部のギリシャ系であるキプロス共和国と北キプロストルコ共和国と二つの共和国に分断されていて、情勢はなおも予断を許していませんが、対話は続いています。北キプロストルコ共和国は南北統一派の大統領が就任したこともあり、一層対話は進む様相でございます。アンドレウさんが今どういう活動をなされているかわかりませんが、ロータリー平和フェローの卒業生が必死に今も地域の平和のため献身的な活動を続けておられるものと確信しております。

960名の平和フェローシップ卒業生になかの一人アンドレウさんは国際大会で話されましたので活動ぶりを知ることができました。このパンフに10数名が紹介されておりますが、残りの卒業生の皆様も目立たなくてもそれぞれ国際平和のために働いておられるものと思います。

青少年交換学生 ロータリー財団奨学生 米山学友奨学生それぞれ大変意義あるプログラムでございますが、ロータリー平和フェローシップもロータリーが取り組む非常に意義あるプログラムでございます。

この後、北清治前R I 理事にもご登壇いただきパネルディスカッションを用意させていただいておりますが、ロータリー平和フェローシッププログラムに対しまして一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、私からの説明とさせていただきます。